

研究機関名：東北大学

受付番号：	2013-1-53
研究課題名	がん治療における中心静脈ポート造設部位／合併症に関するアンケート調査
研究期間	西暦 2013年 5月（倫理委員会承認後）～2015年 12月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（診療録情報）
上記材料の採取期間	西暦 2000年 1月～ 2015年 12月
意義、目的	がん治療において中心静脈ポートは、①治療：抗がん剤、②支持療法：経口・経腸栄養不能時の高カロリー輸液、③緩和医療：オピオイドを含む種々の症状緩和薬剤、の供給経路として診断から終末期に至るまで非常に有益な役割を果たす。また上記医療を入院でなく通院や在宅で行う面でも貢献する為、在院日数短縮による医療費削減効果も期待できる。しかし極めて低頻度ながらその造設に合併症リスクが伴うのも事実であり、リスクベネフィットを勘案する必要がある。患者・医療者共に最大の不利益は致命的合併症である。その回避という観点からは、血気胸や動脈誤穿刺のリスクを最小限化できる上腕部が他部位（鎖骨下、内頸等）よりも安全な可能性がある。他に全合併症、患者 QOL、コスト等の評価も重要である。最終的には前向き比較試験が実施される必要があるが、その為の予備調査として現状を明らかにする事を本目的とする。
方法	全国のがん拠点病院にアンケート調査票を送付する。それを基に各施設で同票を作成・返送頂く方式とする。各施設の患者個人情報には本学へは送付されない。項目は中心静脈ポートの年間造設件数、目的、部位、実施診療科、方法、致命的合併症の発生状況、他の合併症（感染症、血栓症、機械的合併症等）の発生状況、使用物品（コスト）、等とする。必要に応じ回答が得られた機関に対して、詳細に関する二次調査を検討する（致命的合併症の原因、複数の手技を実施している場合は各手技における上記項目の優劣性に関する印象、等）。
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学病院 腫瘍内科 塩野 雅俊 〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 4-1 電話:022-717-8543 FAX:022-717-8548